

それぞれの違いとできる工夫

人によって、感じ方や困りごと、必要な配慮はさまざまです。各障害について正しく理解し、配慮の方法を知ることが、だれもが安心して過ごせる社会につながります。複数の障害が重複している場合もあり、必要な配慮は一人ひとり異なります。

視覚障害

- 視機能（視力、視野、色覚、光覚）低下により生活に支障がある状態。
- 見えない、細部がぼやけてわからない、見える範囲が狭い、明るさに敏感など、見え方はさまざま。

配慮のポイント

- 視覚情報を得にくいため周囲の状況がわからず、行動に移すことが難しい場合があります。
- 戸惑っている人を見かけたときは、驚かせないように正面から声をかけ、本人の希望を確認し、必要に応じた援助を。

たとえばこんなときに困っています



- 誘導用ブロック上に物が置かれており通れない。
- 「あっち」や「むこう」などの指示語では、場所がわからない。

聴覚障害

- 音が聞こえにくくなる「伝音難聴」と、言葉の聞き分けが難しくなる「感音難聴」、両方を併せ持つ「混合難聴」の3種類。
- 聞こえ方には違いがあり、手話を使用する人、補聴器を使用する人など、さまざま。

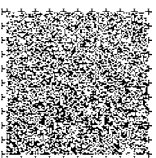
配慮のポイント

- 外見からは気づかれにくいことが多いです。
- 筆談や手話など、相手に合わせたコミュニケーション方法を確認。
- 話すときはゆっくり文節を区切ったり、記号や図を用いて分かりやすく。

たとえばこんなときに困っています



- 複数人が同時に話すと、会話についていくのが難しい。
- 外出先の緊急時のアナウンスがわからず、状況把握できない。



もう 盲ろう

- 視覚と聴覚の両方に障害がある状態。
- 目が見えず音も聞こえない「全盲ろう」、目が見えず音が聞こえにくい「盲難聴」、目は見えにくく音が聞こえない「弱視ろう」、目も音も見えにくく聞こえにくい「弱視難聴」の4つに分けられます。

配慮のポイント

- コミュニケーション、移動などさまざまな場面で困難があり、周囲のサポートが不可欠。
- 障害の程度により、情報取得やコミュニケーションの方法が異なるため、指点字や触手話など、その人に合わせたコミュニケーションが大切。

たとえばこんなときに困っています



- 周りの状況がわかりづらく、困っていても援助を求めにくい。
- 会話の相手が急に変わると混乱する。

失語症

- 脳の損傷などにより「話す・聞く・読む・書く」といった言語機能に困難が生じる障害。
- 理解力は保たれている場合が多いですが、伝える手段の不自由さから、理解力にも困難があると誤解されやすいことが特徴です。

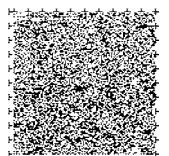
配慮のポイント

- 短く区切ったやさしい言葉、絵や文字、ジェスチャーを組み合わせて伝える、返答をゆっくり待つなど。
- 伝えたい気持ちを尊重し、焦らせずに意思表示できる環境整備も重要です。

たとえばこんなときに困っています



- 症状や体調を言葉で伝えられず、適切な診察が受けにくい。
- 雑談が難しく、孤立感やストレスを感じやすい。



それぞれの違いとできる工夫

構音障害

- 音をつくる器官やその動きに問題があり、発音がうまくできない状態。
- 話し方がぎこちなくなったり、言葉が途切れたりなどコミュニケーションに支障をきたすことがあります。

配慮のポイント

- 本人が言いたいことを伝える際に、不安やストレスを感じてしまわないよう、ゆっくり落ち着いて話をできる環境整備が大切です。
- ジェスチャーや文字など言語以外でのコミュニケーション手段も活用を。

たとえばこんなときに困っています



- 何度も聞き返される。
- 電話対応がうまくできない。

知的障害

- 脳がなんらかの影響を受けたために知的機能の発達が遅れ、コミュニケーションなどの社会生活に困難が生じる障害。
- 障害の現れ方には大きな個人差があります。

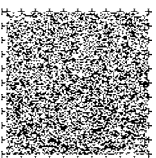
配慮のポイント

- 複雑な事柄や抽象的な概念の理解が難しい場合もあるため、短文や、やさしい言葉、絵や図を使い、「ゆっくり」「ていねいに」「繰り返し」「説明をするなどの配慮を。
- 理解に必要な時間、繰り返し確認できる環境を整え、安心して意思を伝えられるよう配慮することが重要です。

たとえばこんなときに困っています



- 一度にたくさんのことを言われると混乱する。
- 案内板などの意味を理解するのが難しい。



肢体不自由

- 先天的または後天的な要因により、体の動きに関する器官が損なわれ、「立つ」「座る」「歩く」「字を書く」など日常の基本的動作に困難がある状態。
- 発声器官の麻痺などにより、音声でコミュニケーションをとることが難しい人もいます。

配慮のポイント

- 障害の種類や程度は一人ひとり異なります。
- ドアの開閉、筆記など、困っている様子の人を見かけたら、一声かけて必要な援助を。
- どんな困りごとがあるのかを理解することが大切です。

たとえばこんなときに困っています



- 体温調節が難しく、温度感覚が他の人と合わない。
- 車椅子利用のため、ものを拾ったり、高い位置にある表示を見たり、機器を操作したりするのが難しい。

高次脳機能障害

- 病気や交通事故などで脳が部分的に損傷されたために、思考・記憶・言語・注意などの脳機能の一部に障害が起きた状態。
- 注意障害や記憶障害、失語症、社会的行動障害などさまざまな症状があります。

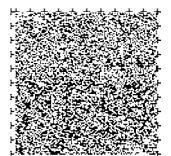
配慮のポイント

- 集中力が続かない、感情のコントロールができないといった症状があるものの、外見からはわかりにくいので、周囲からの十分な理解を得にくいことがあります。
- プレッシャーをかけず、安心できる環境整備を。

たとえばこんなときに困っています



- 新しいことを覚えにくい。
- 図や表示の意味を理解できないことがある。



それぞれの^{ちが}違いとできる^{くふう}工夫

内部障害

- 体の内部にある内臓機能に障害があり、日常生活や社会生活に支障がある状態。
- 障害のある臓器だけでなく全身の健康状態が低下し、疲れやすいといった特徴が挙げられます。

配慮のポイント

- 疲れがたまりやすい、集中力を維持することが難しいなど、外見からはわかりにくい不便さを抱えていることが多く、周囲からの理解を得られずにストレスを受けやすい状況にあります。

たとえばこんなときに困っています



- 他の人よりも疲れやすく、周りと同じような動きをすることが難しい。
- 外見からはわかりづらいので、周囲の目が気になる。

重症心身障害

医療的ケアが必要

- 重症心身障害児者や医療的ケア児等は、外出中に休憩やケアが必要になることがあります。
- 周囲は、本人や介護者に支援が必要か確認し、必要に応じて、通路や医療機器電源、トイレの確保など、安心して移動・参加できる環境づくりに協力することが大切です。

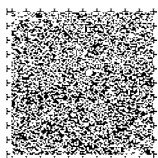
配慮のポイント

- 本人や家族が安心して暮らせるよう、困りごとや不安を相談できる窓口や、支援体制の確立など、各自治体が体制を整備することが重要です。

たとえばこんなときに困っています



- 痛い・苦しい・疲れたなどを伝えるにくい。
- 痰や呼吸の状態、急に休憩や痰の吸引などのケアが必要になる。



発達障害

- 自閉スペクトラム症、アスペルガー症候群などの広汎性発達障害や学習障害、注意欠陥多動性障害など、脳機能の発達の仕方に生まれつき個人差がある障害。
- 特性は幼いころから現れることが多いとされていますが、診断が下りる時期には個人差があります。

配慮のポイント

- 対人関係やコミュニケーション、環境変化への適応が難しい場合があります。
- 症状はさまざまで、望ましい対応方法も異なります。

たとえばこんなときに困っています



- 同時に複数の作業を行うことが難しい。
- 感覚が過敏で音、光、臭い、気圧の変化等の刺激が苦手。

精神障害

- 統合失調症や、うつ病などの気分障害、神経症・ストレス関連障害、アルコールや薬物依存症、認知症などの精神疾患のため、日常生活や社会生活で難しさを抱えている状態。

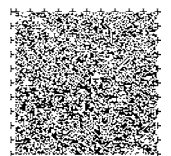
配慮のポイント

- 体調や感情のコントロールが難しくなることがあります。敏感さや繊細さへの配慮が必要です。
- 精神障害が「脳」の機能に関係する病気であることを理解し、正しい知識を学ぶことが重要です。

たとえばこんなときに困っています



- ほかに人とコミュニケーションをとるときなど、緊張やパニックが起こることがある。
- 疲れで理解力が落ちる。



それぞれの違いとできる工夫

難病

- 固有の病名ではなく、発病の原因やメカニズムなどが明らかでなく、治療方法が確立していない希少な疾患で、慢性的な経過をたどり、長期療養が必要なもの。
- 多くの難病に共通して、体調が不安定になりやすい特徴があります。

配慮のポイント

- さまざまな疾患があり、外見や行動から難病であることがわかりにくい人もいます。
- 疲れやすかったり、症状の変化が大きかったりすることも多く、難病に対する周囲の理解と柔軟な対応が必要です。

たとえばこんなときに困っています



- 「難病」=「働けない」と誤解される。
- 他人にうつる病気だと誤解される。

強度行動障害

- 自傷、他害、異食、多動など、本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態。
- 特性に、周囲の環境や関わりが、うまく噛み合わないことで生じやすくなります。

配慮のポイント

- 特性による行動は周囲を「困らせる」行動ではなく、本人が「困っている」サイン。
- 行動の背景にある不安や緊張、困難を理解し、落ち着いて過ごせる環境整備が必要です。

たとえばこんなときに困っています



- 特定の順番で物事が進まず先が見通せない不安、パニックになる。
- 人の気持ちを読み取るのが難しい。

